

会 議 録	
会議名	平成28年度第3回三郷市在宅医療・介護連携推進協議会
日 時	平成29年2月2日(木) 13時30分～15時00分
会 場	健康福社会館 5F(501, 502会議室)
参加者	<p>【会 長】谷口 聡</p> <p>【副会長】秋葉 明</p> <p>【委 員】石井 久美子、猪瀬 茜、入澤 光子、榎本 隆、加藤 泰子、 小林 真人、佐藤 厚志、宍戸 六郎、白井 健志、外館 伸也、 星野 巳佐子、藤井 なほ美、藤竿 千恵美、矢口 明美、 矢口 賢治、山崎 光一、横堀 公隆</p> <p>【医師会事務局】安保 順子</p> <p>【事務局】森 泰子(ふくし総合支援課長)、稲舛 克巳(ふくし総合支援課ふくし総合相談室長)、谷口 寿美枝(地域包括係長)、元井 隆幸(同 主任社会福祉主事)、板垣 美慧(同 主事)、橋本 あけみ(同 相談員)、森 里美(健康推進課長)、原山 千恵(健康推進課長補佐)、峰川 修一(長寿いきがい課長)、前川 浩司(長寿いきがい課長補佐兼長寿いきがい係長)、長濱 崇二(長寿いきがい課長補佐兼介護給付係長)</p> <p>【傍聴人】なし</p>
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 議題</p> <p style="padding-left: 2em;">(1) 北部検討部会結果報告 南部検討部会結果報告</p> <p style="padding-left: 2em;">(2) メディカルケアステーション(MCS)のモデル運用の実施について</p> <p style="padding-left: 2em;">(3) 来年度の予定</p> <p>3. 報告事項</p> <p style="padding-left: 2em;">(1) 三郷市在宅医療・介護連携サポートセンターからの報告</p> <p style="padding-left: 2em;">(2) 講演会について</p> <p>4. 連絡事項等</p> <p style="padding-left: 2em;">・平成29年度協議会委員受託意向調査の実施について</p> <p style="padding-left: 2em;">・次年度の会議日程</p> <p>5. 閉会</p>

平成 2 8 年度第 3 回三郷市在宅医療・介護連携推進協議会	
1 . 開会	
事務局	資料確認。
谷口会長	<p>平成 2 8 年から在宅医療・介護連携推進事業が始まり、今年は具体的に進めていく時期になった。会議はスピード感を持ち、委員にはもっと中心的役割を担ってほしい。</p> <p>本日、薬剤師会の小林委員が所要により欠席の為、薬剤師会より藤竿千恵美氏が代理で出席。通所サービス事業所代表の外館委員は所用により欠席。</p> <p>8 月をもって理学療法士会代表の森田氏が退任した。今回より新委員となった同事業所の榎本氏が委員となる。</p>
榎本委員	南部検討部会には参加している。宜しくお願いする。
2 . 議題	
(1) 北部検討部会結果報告	
加藤委員	<p>平成 2 8 年 1 2 月 8 日に北部検討部会を開催した。</p> <p>医療と介護の連携に関する困難事例を池上委員、石井委員、星野委員から報告いただいた。</p> <p>池上委員、石井委員、星野委員の 3 事例とも退院時の連携がうまくいかなかった事例。困難事例と言っているが、通常の事例で良くあるパターン。</p> <p>本人と家族が退院後の生活がイメージできない状態で退院し、地域の介護側が早くに介入が出来ていないケース。早期に専門職の介入が必要な場合でも、医療・介護がそれぞれの情報提供ができていない。</p> <p>退院してから在宅で生活ができず、喪失感を持ち、施設に移行になるケース。施設入所による喪失感、さらに病院への U ターン等、専門職と本人の気持ちとの行き違いがみられる。介護、医療の役割分担も必要。「誰かがやってくれている」と思い、支援に繋がっていない。</p> <p>病院側が、病院と在宅の違いが見えていないケース。退院前は、在宅での小さな段差、家具の配置等、在宅生活で困難になるポイントが見えていない。</p> <p>その他、MCS の登録状況、活用方法について話し合った。</p>
谷口会長	事例の印象はどうだったか。
星野委員	医療・介護それぞれのコミュニケーション不足。かみ合ってい

	ない。
谷口会長	「誰かがやる」「誰かがやっている」と思い、誰が中心になって支援するか明確になっていないことは大きな問題だ。介護老人保健施設も問題はあるか。
矢口（賢）委員	介護老人保健施設から在宅の生活に戻るとき、また在宅から介護老人保健施設での生活が変わるとき等、家族との関わりには気を付けている。
2.(1) 南部検討部会結果報告	
秋葉副会長	平成28年11月24日に南部検討部会を開催した。 医療と介護の連携の事例で上手くいった例、上手くいかなかった例について話し合った。事例として、以下の意見があった。 入院前と退院後の体調の違いがあっても病院から連絡がない。書類関係の不備等もあり、密に連絡が取れる関係とはいえない。 往診の医師とは、連携が取れている。直接会って書類を依頼し、顔の見える関係である。 地域包括支援センターが、顔の見える関係をつくる努力、知りあう場をつくる役割になるのではないか。 今後の連携はMCSの活用がカギになるのかと思う。 検討部会の中で、検討課題の何を話し合うべきかが、はっきりしなかった。患者に何が必要なのか、目標をどうしていくのが課題となる。意見を共有し、協議会内の課題が見えてくると良い。
白井委員	退院する前に病院とケアマネジャーが、気になることなどを話せると良い。そこで退院後のイメージが話せると良い。
佐藤委員	地域包括支援センターみさと南では、訪問診療の医師や訪問看護と連携できている。入退院の調整では、外来の医師と連絡がとりづらい。共有の退院調整ルール作りをすべきだと思う。「地域包括支援センターが顔の見える関係づくりをすべき」という発言があるが、地域包括支援センターの取り組みが見えていないのではないかと思う。
谷口委員	北部は、関係者に直接聞くのが一番良いという意見だ。 南部は、健和病院が比較的うまく調整できているのか。
猪瀬委員	訪問介護としては、退院後調整会議に参加できれば良い。急に退院してきたかたは、訪問して初めて状況が見えることがある。
谷口会長	この問題を誰に伝えればいいのかわからない現状か。接骨師会の

	関わりはどうか。
山崎委員	接骨師会は現在市内を6分割して、地域包括支援センターの圏域ごとに担当がある。
谷口会長	在宅医療・介護連携サポートセンターが訪問診療を行う専門職を登録している。サポートセンターでは、市民や専門職から相談があった際に、接骨師の先生を紹介することが出来るので登録してほしい。 現状としては、医師はマッサージが必要な患者がいても、誰に頼めばいいのかわからない。登録してもらおうと、発信できる。窓口は、山崎委員で良いのか。
山崎委員	鍼灸師、マッサージについては窓口になる。
入澤委員	地域包括支援センターしんわで、地域ケア会議を開催した。専門職が来るのでケアマネジャーにも傍聴いただいた。地域ケア会議に司法書士、弁護士、ケアマネジャーに参加していただいたことは良かった。
谷口会長	北部、南部の地域の違いが見えた。次回は、もっと事例の中身を話せると良いかと思う。
2.(2)メディカルケアステーション(MCS)のモデル運用の実施について	
事務局	資料3-1参照。 MCSのモデル運用の必要性について意見が出ていたため、モデル運用の実施(案)を作成した。モデル運用の目的は、MCSの本格稼働に向けて、モデル運用を行うことで、運用上の問題点の洗い出しを行うこと。また、MCS運用における詳細ルール(三郷市在宅医療・介護連携推進協議会独自ルール)を作成することで、初めてMCSを使う人にもわかりやすいものにしていくためである。 内容を抜粋して紹介する。 モデル運用における管理者は、会長の谷口先生及び南部検討部会の生田先生に依頼。承諾をいただいている。モデル患者は10名程度。すでにモデル以外でも運用が開始されているが、対象患者を決めて経過を追っていく。モデル運用実施期間は3か月。モデル実施期間は2月中旬から4月中旬を予定している。谷口先生はすでに運用されているが、生田先生はこれから運用を開始する予定。MCSの運用は「MCS運用ポリシー」及び本日検討予定の「三郷市在宅医療・介護連携推進協議会独自ルール」に沿って実施して欲しい。

	<p>モデル運用の結果、運用に関わった専門職へアンケートを実施し、効果を検証したい。アンケートの内容については、モデル運用を実施した他市へ確認中である。MCS での内容を個人情報が特定されない範囲で協議会に情報提供を依頼し、「三郷市在宅医療・介護連携推進協議会独自ルール」を作成したい。</p> <p>モデル運用の流れについては、資料 3 - 2 参照。</p>
谷口会長	<p>MCS 運用ポリシーの一部改正が必要になった。</p> <p>三郷市医師会安保氏より説明をする。</p>
安保氏	<p>MCS ポリシー変更箇所について</p> <p>付け加えた部分は、「第 6 条（ただし、契約時に連携元事業所以外の情報提供の同意が記載されているのであれば、MCS を始めるに当たり、改めて同意書を取る必要はない）」</p> <p>「第 11 条、一つの ID を複数人で共有しないことが望ましい。やむを得ず共有する場合には、各事業所の管理責任において使用する」</p> <p>「第 12 条、情報及び情報機器を持ち出す場合には、持ち出す情報の内容、格納する媒体、持ち出す目的、期間等を各事業所の MCS 管理者に届け出ること」</p> <p>「附則 第 2 条 平成 29 年 1 月 27 日一部変更」</p> <p>以上</p>
谷口会長	<p>事業所単位で登録する場合は、事業所の MCS 管理者がしっかり管理することにした。</p> <p>続いて、MCS の運用に関する詳細事項について、三郷市在宅医療・介護連携推進協議会独自ルール（案）を作成した。事務局より説明する。</p>
事務局	<p>資料 4 - 2 参照</p> <p>検討部会で出た案をもとに、MCS の運用において問題になりそうな点を明確にするため、「三郷市在宅医療・介護連携推進協議会独自ルール（案）」としてまとめた。</p> <p>独自ルールは MCS 運用ポリシーより詳細な運用上の取り決めを示している点が、MCS 運用ポリシーと異なる。現段階のルール（案）は、たたき台として使用し、協議会として「三郷市在宅医療・介護連携推進協議会独自ルール」作り上げていきたい。</p> <p>協議会や検討部会において、変更、修正を繰り返し、今後 MCS に参加する専門職が迷わないようにする。ルール完成後は、MCS 運用ポリシー同様に公開し、それをもって MCS 本格稼働とした</p>

	<p>い。内容を抜粋して紹介する。個人や事業所単位で ID の発行及び退職等による削除はサポートセンターを通じて行う。コメント記載のルールとして、事業所単位で登録している者が MCS ヘコメントを入力する場合は、職種及び氏名を名乗る。代理入力する場合は、訪問者名を記載する。発言の内容が情報提供か、質問か文頭に入力する。MCS で共有する内容は、各専門職が多職種と共有すべきと判断する内容を載せる。</p> <p>ルール案の修正や追加、削除したい部分について率直な意見をお願いしたい。</p>
谷口会長	<p>使用において不明点があればメモし、後で報告してほしい。</p> <p>MCS のモデル運用の実施状況について藤井委員より報告する。</p>
藤井委員	<p>資料 2 参照</p> <p>谷口医師の利用者の事例を資料にした。</p> <p>訪問看護師、医師、ケアマネジャーの部屋。専門職によって記載内容が変わる。資料は、情報共有した内容である。</p> <p>私は、コメントを読んでも『いいね』を押し忘れていた。</p> <p>医師会訪問看護ステーションでは、タブレットを 3 台レンタルしている。私以外の訪問看護師が、MCS 上で訪問看護師藤井の ID で答えてしまい、入力者の名前を明記していなかった。今後は、ルールに沿って行う。</p> <p>まだ、使用方法が理解できていない点もある。例えば、患者(妻)の状態が不安定で、夫は病院で看取りたいと思っているが、医療側は在宅で看取れると思っていた。患者は自宅に戻りたいが、急変対応に困り、MCS で健和病院の緩和病棟に入ったケースがあった。相手方へ伝える記載の難しさを感じた。ルールが決まれば、もっと使いやすさを感じると思う。</p> <p>今後は、事例をたくさん作って発表していく。</p>
谷口会長	意見はあるか。
委員	なし。
2.(3) 来年度の予定	
事務局	<p>資料 5 参照</p> <p>(ア) マップの作成を検討している。</p> <p>(イ) MCS の運用が始まるため、協議会と検討部会の開催回数を今年度より増やしている。MCS の運用は個人情報も関わっていることから、慎重に進める。三郷市在宅医療・介護連携推進協議会独自ルールの作成の為、3 月及び 5 月に検討部会、その結果</p>

	<p>を6月に協議会で報告、7月にもう一度検討部会に戻し、8月の協議会で独自ルールを正式決定する。その後は、進捗状況にあわせて会議の日程を検討していきたい。</p> <p>(エ) MCSモデル運用、モデル運用の検証、ルールの決定後、本格稼働とする。操作説明会も随時開催していきたいと考えている。</p> <p>(カ) 専門職向け研修は、日程は未定であるが、来年度行う予定。</p> <p>(キ) 来年度6月に市民向け講演会を行う予定。詳細は報告事項で説明する。</p>
3. 報告事項	
谷口会長	<p>三郷市在宅医療・介護連携サポートセンターから報告する。報告を三郷市医師会事務局安保氏より説明する。</p>
安保氏	<p>サポセン情報は第3号、第4号を発行している。</p> <p>患者登録者数は52名、登録累計では59名。専門職の登録者数は会員施設数60件。医師以外の専門職の登録者数は前回から増えていない。後方ベッドの活用状況は4件で難しさは感じている。登録の要請があっても、家族に拒まれる。</p> <p>在宅支援ベッドもあるが、急を要するものは救急搬送。レスパイト(社会的入院)は、三郷市には地域包括ケア病棟をもっている病院が、その役割を担うということで外れる。</p> <p>MCSの登録状況は、誓約書は提出済みの登録が68人になっている。</p> <p>サポートセンターへの相談内容、本人家族から10件。訪問看護の利用に関することや難病患者に対しての内容等。</p> <p>3月2日に県医師会で埼玉県版 MCS の開発内容の説明がある。追ってみなさまにも説明する。</p>
(2) 講演会について	
事務局	<p>平成29年度市民向けの講演会の概要</p> <p>日時は平成29年6月10日、講師は医師の石飛幸三先生に『平穩死』をテーマでご講演いただく。講演の内容が在宅医療。介護連携推進事業と方向性や内容が一致するため、他自治体では在宅医療・介護連携推進事業の講師として招いているところも多い。</p>
谷口会長	あくまでも、市民向け講座である。
4. 連絡事項等	

事務局	<p>議事録については、後日事務局から郵送する。</p> <p>平成29年度協議会委員受託意向調査を実施する。本日調査票を配布している。3月3日（金）までに地域包括係まで提出して欲しい。受託しない場合も事務局まで連絡して欲しい。</p> <p>次回の協議会の日程は、6月頃を予定している。その前には、検討部会も予定している。日程は開催通知を送付する。</p>
5 . 閉会	
秋葉副会長	<p>以上をもって平成28年度第3回三郷市在宅医療・介護連携推進協議会を終了する。</p>